

### 新米出荷始まる

収穫の秋を迎え、9月11日、東川町農協玄米センター（西3号北31番地）で今年の新米初検査が始まりました。今年の新米検査は、28区、三田和幸さん（40）のフレコン（1ト詰めフレキシブルコンテナ袋）出荷米。「ゆめぴりか」2袋（約2ト）を出荷しました。今年も玄米センターの玄米調整出荷施設の改修で全自動調整が可能になり、荷受け重量、荷受け量を計った後、集荷後に全自動自主検査装置を経由して等級、品位、等級品歩合、規格外歩合を自動確定できるようになりました。三田さんの出荷米は、いずれも水分量14・8%、整粒歩合72%の1等米基準をクリアして全量1等米出荷となりました。



樽井功組合長は「今年は6月の低温で芽数は不足しているが、7月以降の高温で良い仕上がりになっている。玄米センターも改修し、さらなる東川米のブランド力を高めるため町内18万俵（1万800ト）を超える主食用米の

集荷と高い品質を目指したい」と改めてブランド米としての安定品質出荷への取り組みを誓いました。町内では、この日の一番出荷に先駆けて、9月1日からコープさつぽろ向けの早場米「ほしのゆめ」収穫、出荷完了しており、三田さん方からも156俵（9千360キログラム）を出荷しています。今年の新米は、15、16日にピークを迎えました。

### 神饌田で稲刈り

9月6日、東2号北1、三田常男さん（70）の北海道神宮神饌田（しんせんでん）で稲刈りに当たる抜穂祭（ぬいぼさい）を行いました。昨年より2日早い刈り入れ祭。稲穂は見事な黄金色に色づき、高く秋の青空が広がりました。12人の早乙女（さおとめ）は、武蔵野大学6人、法政大学1人のインターンシップ研修の学生

東川町農協女性部フレッシュミス、同農協の助成職員。介助役6人は同農協青年部の後継者ら。素足になって田んぼに入り、稲刈り唄（うた）に合わせてゆっくりとしたリズムで稲を刈り取りました。刈り終わった稲は樽井功東川町農協組合長と耕作長の三田さん2人でさ掛



けし、豊作を喜びました。今年も6月の日照不足で当初心配されましたが、その後好天が続いて持ち直し、平年作以上の期待約20アで育てた「ゆめぴりか」新米10俵（1俵は60キログラム）は、新嘗祭（にいなめさい）で北海道神宮に奉納します。

### 稲刈り前に生産者集会

9月7日、東川町農協で東川米全水稲生産者総決起集会が開かれました。秋の収穫シーズンを迎えて、生産者の米出荷体制などを徹底するために開きました。収穫米の出来栄、集出荷の心構えや品種別の受け入れ態勢、品質別の価格の確認などを申し合わせました。



上川農業改良普及センター大雪支所によると、作況は「例年並み」以上の期待感。7月初旬の出穂期に初期生育が悪く芽数が少ないものの、盛り返して順調に収穫期を迎えました。しかし穂揃いが悪く、胴割れ、着色

米が出やすく、刈り取り適期の判断が難しい、と適期刈り取りの徹底を呼びかけました。ホクレン農業協同組合連合会旭川支所は、本年産米の流通状況として、早場米の生育状況報告と今年の流通適正水準を予測。「家庭用米は余っているが、業務用米が足りない」と需要に見合った用途別の作付け品種選択の必要性などを指摘しました。同農協で改修工事が完了した東川農産物検査所（西4号北32番地）では、今年「ゆめぴりか」「ななつぼし」「ほしのゆめ」「きたくりん」の4品種を中心に出荷米を受け入れています。

### 旅行者で交通事故防止の啓発カード

東川町交通安全協会（米田保会長）と旭川東署（押野幸樹署長）、東川町は、外国人観光客向けに交通安全啓発カードを配ることに。9月15日、町内の飲食店「ロースター・コースター」（西町1丁目、カール・ウィルコックさん経営）をはじめ中心市街地の飲食店で啓発カードの配布を呼びかけました。



町内で発生した昨年1年間の交通事故は172件（1〜12月期、物損、人身含む）。観光ピーク時（7〜8月）の交通事故は32件でした。約2割がこの時期に集中しています。道外旅行者が関係した事故は7件（22%）でした。今年も発生34件（同期比）、うち道外旅行者事故6件と、相変わらず交通事故の約2割を占めて増加傾向にあるといえます。

### キトウシ森林公園でローラースキー大会

9月10日、ひがしかわ観光協会、東川振興公社など大会実行委員会は第5回全道ヒルクライムローラースキー大会をキトウシ森林公園特設コースで開きました。（18区の各種大会成績参照）クロスカントリースキー競技の夏期トレーニングとして取り入れられているローラースキー・クラシカルのタイ



クロスカントリースキー競技の強豪スキー少年団、道内の強豪高校スキー部選手を中心に、一般男女参加まで約100人が出場しました。参加選手の増加とともにトップ入賞者の記録タイムも年々更新、選手にとっては本格シーズンに入る前の励みになっているよう。

### 収穫迎えてつべん祭り大盛況

8月27日、東川町農協（樽井功組合長）主催の第15回つべん祭りが同農協駐車場特設会場で開かれました。一足早く出来秋を祝う恒例の収穫祭。好天に誘われて今年も大勢の家族連れでにぎわいました。



「600円」…、とほしいものを安く競り落とす醍醐味を楽しみました。今年も人力で3・3トンのトラクターを引っ張る「トラクター綱引き」が新登場。稲作研究会チーム、野菜（そさい）園芸研究会

農協の野菜直売コーナーは新鮮な野菜が市場相場の半値という安さ。採れたての安全安心な地元の野菜は飛ぶように売れ行きです。特設テント隣りでは今年も卸売市場・キョクイチ（旭川）のせり人が来場者にメロン、西瓜、トウモロコシをせり売りで大安売り。「ハイ、500円から」「550円」

クロスカントリースキー競技の強豪スキー少年団、道内の強豪高校スキー部選手を中心に、一般男女参加まで約100人が出場しました。参加選手の増加とともにトップ入賞者の記録タイムも年々更新、選手にとっては本格シーズンに入る前の励みになっているよう。